

令和元年度学校防災推進協力校 研究最終報告書

校 名 東伊豆町立熱川小学校
校長氏名 進士 真

1 研究主題

『防災対応力を発揮し、すすんで自助・共助に取り組む児童の育成』

2 学校の実態

熱川小学校がある熱川地区は天城山の南東麓から海岸までの急峻な地形であるため、多くが山林で占められている。また、相模灘に面する海岸線は断崖が多く、荒々しい海岸となっている。そのため、海岸に面する熱川地区は、津波の被害も心配されるが、急傾斜地崩壊危険区域に指定されている箇所も多く、地滑りの発生についても危惧される。さらに、地域全域にわたって断層も多く地質も脆いので、地震時の地盤変形や崩壊にも注意が必要である。

・教員数 16名 ・児童数 150名 ・学級数 8学級(普6・特支2)

3 研究目的(仮説等)

本校は平成30年度の大川小学校との統合の際に、校区拡大に伴う地域防災体制の再考という点から静岡県防災推進協力校の指定研究を委ねられた。将来的に南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中で、命を守る教育を推進することは、子供達が自己の判断で主体的に未来を生きるための力を身につけることにつながるものと考え、次のような仮説を立て防災教育への研究を深めていくこととした。

- (1) 防災教育を通してどのような子供を育てたいか、またそのためにどんな力を育成したいかを明確にして実践化を図ることで、児童の防災意識も高まり、防災についての理解や実践的な技能・態度を育むことができるだろう。
- (2) 現在の教育課程を生かした体系的な防災教育の実践的研究を追究していくことで、無理なくどの学校でも実践できるような防災教育モデルを示すことができるだろう。

4 研究方法(検証の手だて等)

- (1) 防災を通じた生きる力の育成について
 - ①児童や保護者の防災に対する意識や防災に関する理解についての調査を行い、実態を把握する。また、地域の危険性や防災体制などの地域の防災課題について探る。
 - ②防災教育の目的や目指す子供像、つけたい力等について職員間で共通理解を図る。また、研究構想図を作成し、研究の方向性を明確にする。
- (2) 体系的な防災教育の推進について
 - ①つけたい力を教育課程にどう位置づけるか検討し、防災教育の視点での教育課程の見直し・構造化を図る。
 - ②防災教育の視点からのカリキュラム・マネジメントを推進し、教科横断的な学習を有効に活用しながら防災への学びを深める。

5 研究経過

(1) 防災教育推進の課題と展望について

①児童・保護者の防災に対する意識調査と地域の防災課題の共通認識

ア. 今後、大きな地震が発生すると思っている児童が6割程しかなく、また非常食や飲料水等の備蓄や地震発生時の家族の集合場所など、有事に対する準備ができていない家庭は7割程であった。さらに、地域の避難訓練への参加も3割を切り、決して防災への意識が高いと言えない状況であった。

イ. 海岸に面する熱川地区は津波の被害も心配されるが、急傾斜地崩壊危険区域に指定されている箇所も多く、地滑りの発生も危惧される。また、その一方で有事を想定した防災体制について万全と言える状況は整っていない。

以上のような課題を踏まえ、「学校防災環境の整備」「教職員・保護者・地域の防災意識の向上」「防災教育の推進」の3点を目的として学校防災に取り組むこととした。

②防災教育を通して育む「生きる力」の明確化

ア. 生きる力としての「防災対応力」

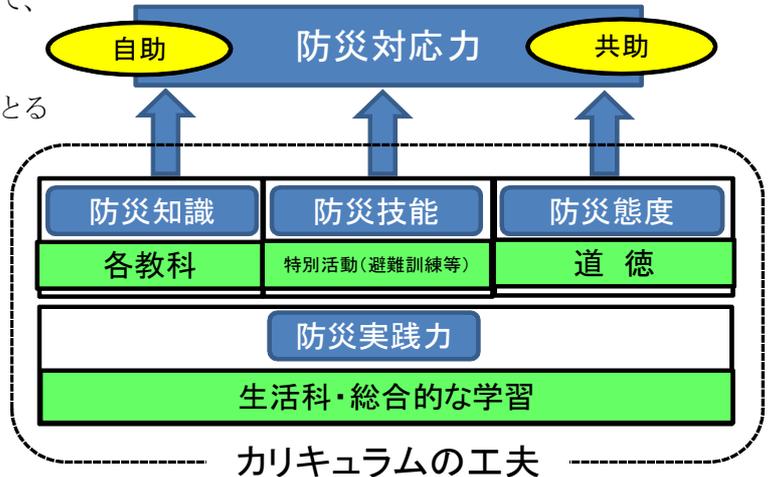
本校の防災教育の目指す子供像を、「防災対応力を発揮し、すすんで自助・共助に取り組む児童」とし、防災対応力を「防災・災害対応についての知識・技能・態度を総合的に育成することによって、思考力・判断力・実践力を発揮し、災害時に自他のために的確に行動できる力」と定義した。

イ. 防災対応力を育む学習の体系化

防災対応力を培うために、防災教育を現在の教育課程に体系的に位置づけ、どのような学びを育み、どのような力を身につけるのか次のように明確にしていた。

- ・各教科において、「防災や災害に関する基礎的な知識等の指導（知識）」を行う。
- ・特別活動（学級活動や学校行事）において、「防災や災害に関する直接的な内容の指導（技能）」を行う。
- ・道徳において、「災害発生時に人としてとるべき行動の根底となる心や態度の間接的な指導（態度）」を行う。
- ・生活科や総合的な学習において、「地域と防災課題を共有し、その解決に向けた実践的な学び（実践力）」を行う。

右図に示すように、防災に関する知識・技能・態度・実践力を現存する教育課程にバランスよく位置づけ、カリキュラムを工夫しながら体系的に指導していくことで、防災対応力が育まれるものと考えた。【資料1】



(2) 防災対応力を育む体系的な防災教育の実践について

既存の年間指導計画を次の視点で見直し、防災を核にしたカリキュラム・マネジメントに取り組んだ。

- ・年間指導計画を各教科（知識）、特別活動（技能）、道徳（態度）、総合的な学習等（実践力）の4項目に整理した。
- ・各項目の学習内容を見直し、防災に関する内容や、防災へ発展できる内容の追加・修正を図った。
- ・各項目の防災に関する内容を赤字で示すとともに、横断的な学習が効果的に展開できるよう直線でつないで示した。また学習内容の入れ替えを行い、より深い学びができるような教材配列を行った。
- ・各学年間で学習内容を見直し、発達段階を配慮した学習内容であるか確認したり、系統的な学習がなされたりできるようにした。【資料2・3・4】
- ・毎月末に各学年の防災に関する取組状況の共通理解を図るだけでなく、学期末には4項目の実践について振り返り、課題と成果を明確にするなど、PDCAを機能させながら実践への展望を明らかにしていた。

① 防災知識を学ぶ教科学習

防災知識を身につける教科学習のスタイルを次の3つに整理し実践を試みた。

- ア. 発展型・・・教科で学習したことを防災への学びに発展させていく学習
- イ. 関連型・・・教科の学習内容に防災に関する内容を関連させていく学習
- ウ. 本質型・・・防災に関する内容が教科の学習内容となっている学習

<実践例1> 発展型（6年生理科「物の燃え方」）

単元名：『燃える仕組みを探り、ウッドストーブを作ってカップラーメンを食べよう』

内容：総合的な学習（防災実践力）で、6年生は避難所について学んでいる。そこで、実際に避難所等で活用できるウッドストーブを自作するために、「ものの燃え方」の学習で燃える仕組みについて理解していった。児童は機能的なウッドストーブのよさを実感するとともに、学びの目的を明らかにし、学習したことが生活に生かされることで、主体的に学ぶ姿が見られた。

<実践例2> 関連型（6年生家庭科「夏をすずしくさわやかに～快適な着方と住まい方を工夫する～」）

題材名：『電気が使えない暑い夏の生活、私たちはどのように工夫していけばいいのか』

内容：暑い季節に、災害などによって電気の使用が制限される状況を想定し、各家庭で電化製品に頼らずに快適に過ごす工夫を考え、実践的に生かすことを目的に学習に取り組んだ。授業導

入では、電化製品に頼っている自己の生活を振り返らせたり、東日本大震災が起こったときに実施された計画停電の予定表やその写真、さらには7・8月の平均気温と熱中症で病院に搬送された人数のグラフを提示したりして、問題意識を持たせた。
児童は災害時には自分たちが直接被災しない場合でも電気が使えなくなる可能性があること、夏に災害が起こった場合に熱中症の危険性が高まることなどを理解しながら、電化製品に頼りすぎない快適な暮らし方を家族に提案していった。

<実践例3> **本質型**（4年生社会科「地震から暮らしを守る」）

内 容：大地震が起きたらどのような被害が起こるのか考え、自分たちの命や暮らしを守るための備えとして、町や地域がどのような対策を立て工夫しているのかを学んでいった。
自主防災組織の責任者である区長さんや町防災課の方にインタビューしたり、備蓄倉庫を見学したりするなど、体験を通して生まれる課題を社会科の学習の中で追究したり、総合的な学習に生かしたりして、災害から生き抜くために自分たちができることは何なのか、切実感を持って学習に取り組む姿が見られた。

② 防災技能を習得する特別活動

防災知識を生かして身を守るためには、防災に関する技能を身につけなければならない。そこで、実践的な避難訓練を複数回実施したり、学級活動の時間を活用し、避難の仕方や災害への備えについて学んだりしながら、防災技能を高めるようにした。

<実践例1> 学校行事「臨時避難訓練」

内容：定期的な避難訓練の他に、月1回臨時避難訓練を防災担当が計画した。臨時避難訓練は、日時や内容は事前に職員や児童に周知せず、様々な状況を想定して、児童の判断力が問われるような訓練にするようにした。また、訓練後には児童の避難の様子をもとに課題を職員間で共通理解し、次回の臨時避難訓練の方向性を明確にしていっていった。臨時避難訓練は短時間で終了し、即刻、職員間での話し合いが行われるため、職員への詳細な提案も不要となり、ペーパーレスな訓練として児童の防災技能を高める一助となっている。

<実践例2> 学級活動「5年生学級会」（学校に於ける多様な集団生活の向上）

議題：「よりよい避難の仕方を全校に提案しよう」

内容：5年生の児童は、総合的な学習（防災実践力）で、防災（減災）の備えをテーマに探究を進めているとともに、国語の「学校を百倍すてきにする方法」という教材で、学校をよりよくする提案について学んだ。昨年度からの積み重ねにより、児童らは比較的スムーズに避難行動をとることができている。しかし、児童からは、状況毎に異なる避難の仕方の判断・選択、また高学年としてどのように行動・避難していくことがふさわしいかを問う声も聞かれている。そこで、これまで学習したことや体験したことを生かして、全校児童の防災安全の向上のために、自分たちができるよりよい避難の仕方について提案することにした。

<実践例3> 学級活動「外部講師による専門的な学習」（心身ともに健康で安全な生活態度の育成）

内容：5・6年生が日本赤十字社が主催する減災セミナーを受講し、防災や減災の備えの講話を伺ったり、救急法の実技指導を受けたりして、自助・共助への意識や技能を高めた。
また、賀茂地域局危機管理課の職員を講師に、1・2年は防災カルタ、3・4年生はクロスロード、5・6年生は親子で非常持ち出し袋の学習を行うなど、防災に対する技能を高めることができた。

③ 防災態度を養う道徳教育

防災対応力の土壌となる防災態度は、教育活動全体を通じて行われる道徳教育や、またその要となる道徳の授業によって育まれると考えた。そこで、次のような手立てを講じながら、防災態度を養うようにした。

- ア. 防災態度に必要とされる道徳的価値を本校の重点項目として、年間を通して複数回取り扱うようにした。（「節度、節制」「勤労、公共の精神」「生命の尊さ」）
- イ. 校内研修の窓口を道徳とし、道徳の実践的研究を深めることで、児童に防災態度を身につけさせるようにした。
- ウ. 物事を多面的・多角的に考え、主体的に判断できるような授業構想や発問構成を追究していった。

エ. 教科書の資料の他にも、震災時に起こった出来事等を資料とした授業を行うなど、震災を児童が自分事として捉えられるようにした。

<実践例> 5年生道徳

主題名： 本当に「よいこと」とは (善悪の判断、自律、自由と責任)

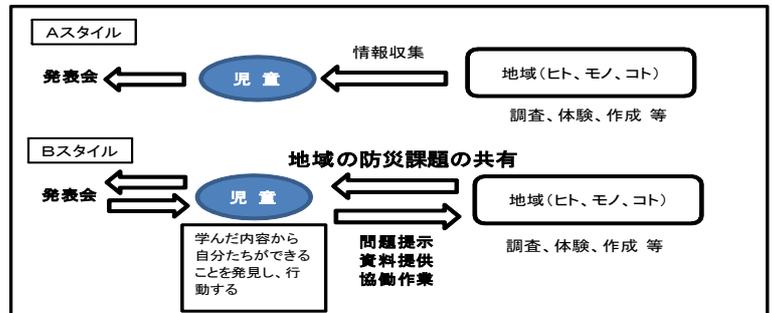
教材名： 「東日本大震災のある記事から」(H23.3.17スポーツニッポン新聞)

ねらい： 被災者のために、横転した車からガソリンを抜き取ることの是非について考え、友達と話し合うことを通して、周りの人の考えを聞きながら、人の気持ちを考えたり、状況を判断したりし、責任を持ってその時に自分にできる行動をすることの大切さに気づく。

④ 防災実践力を育む生活科・総合的な学習

これまでの総合的な学習の時間の取組を振り返ってみると、子供達が課題に対する情報を集め、まとめて発表して終結する学びがよく見られた。しかし、子供達に生きる力を育み、学び続ける態度を育成するには、自己の学びを発信したり、自己の考えたことを客観的に見直ししてみよう経験が必要である。そこで左図のように、ワンウェイ(一方通行)のAスタイルの学習からツーウェイ(双方向)のBスタイルの学びへと転換していくことで、子供達がより深い学びを味わうのではないかと考えた。さらに、防災教育の観点からBスタイルを考えていくと、地域と児童をつなぐものは「地域の防災課題」である。子供達が地域の防災課題を地域の方と共有し、自分たちの学習テーマを確立しながらその解決策を発信していくことで、防災意識を高め、実践力を育むだけでなく、子供達の中に地域の役に立っているという自己有用感や、地域を愛する心情も培われるものと考えた。

令和2年12月3日に行われた「防災発表会」では、多くの保護者や地域の方、自主防や関係機関の方が訪れ、各ブースで発表した児童の学びに耳を傾け、質問や意見を述べる姿が見られた。この発表会はあくまでも中間発表(ファーストラーニング)であり、この後、児童はいただいた意見をもとにさらに学び直しをし、学びの成果を地域へ発信(セカンドラーニング)していく。【資料5・6】



<実践例> 4年生総合的な学習

テーマ： 「災害時に水を確保し、活用するには」

内容： 災害時の避難生活を想定した児童は、生き延びるためには水と食料が必要であり、それらをどう確保していけばいいかということを追及テーマとして、調べたり、試したり、考えを見直したりという活動を行った。災害時の水の確保を飲料水だけで考えていた児童は、社会科で水道の仕組みを学習したことで、水は飲料水以外にも衛生を保つために様々な場面で活用されることを知った。そこで、煮沸消毒の保存水や蒸留した水、濾過した水など、活用の用途に合わせて水をどのように確保すればよいか、体験的な活動を通して確保の方法を明らかにしていった。

(3) 防災への意識を高める実践的な活動について

①防災掲示板の活用

防災掲示板を設置し、生活科と総合的な学習の各学年の追究テーマや学習した内容を理解し合えるように環境を整えた。学習したことを追加したり、構成し直したりして学びの成果が互いに見えるようにした。

②問題意識を持たせる環境づくり

子供達が常に防災に対する問題意識を持てるよう、校内に次のような掲示やコーナーを設けた。

ア. 地震の仕組みを学ぶジオコーナーや液化化現象コーナー

イ. 調べ学習において活用する図書室の防災コーナー

ウ. 津波の怖さや避難の仕方を学ぶ掲示

エ. 自助の備えを見直すための防災グッズの展示

オ. 防災態度で大切にされる道徳的価値を啓発する「生命尊重」のコーナー

カ. 朝礼での防災講話(伊豆半島沖地震の被害・釜石の奇跡と悲劇等)

キ. 全校での通学路点検と危険箇所の掲示(児童が認識した危険箇所を地区ごとに写真で掲示)

ク. 熱川小防災標語コンテスト

③教職員・保護者・地域の防災意識を高める工夫

ア. 被災地防災研修会に参加した校長の還流学習

- イ. 防災実践力を育む総合的な学習の単元構想の研修
- ウ. 学校便りでの「防災通信」の掲載【資料7】

6 研究成果（今後の課題等）

（1）成果

- ①児童はもとより、教職員・保護者の防災への意識の高まりが見られるようになった。日常の職員室においても防災のことが話題になり、研究当初に実施したアンケートと比較すると、児童も保護者も「防災への備えにすすんで取り組もうとしている」との回答が、20%近く上昇している。
- ②「自ら考え、ともに考え、夢に向かって高まる子」という本校の重点目標を防災の自助・共助や防災対応力というねらいと関連させたり、既存の校内組織に防災の組織をリンクさせたり、また防災と校内研修（道徳）を繋げたりする取組によって、教育活動全体の目指す方向性が収束され、組織的・協働的・効率的な実践が図られた。その結果、職員の多忙感も緩和され、働き方改革の視点からも有効な研究であった。このような研究を通して、どの学校でも具現化が可能な防災教育モデルを示すことができた。
- ③防災を通して生きる力を育むため、防災知識、防災技能、防災態度、防災実践力を体系化したカリキュラム・マネジメントに取り組んだ。その結果、PDCAを機能させ、児童の実態に合った指導を行うことができた。今後も、防災カリキュラム・マネジメントを有効に機能させながら、児童に生きる力を育てていきたい。
- ④地域から児童の防災への取組を評価する声が聞かれた。児童の学びが保護者や地域の方の防災意識を高める一助となることをあらためて実感することができた。

（2）課題

- ①学校防災は、自分自身や他者を守る子供を育てる防災教育と、緊急時に教師が子供を守る防災管理の2つの側面がある。防災教育についての推進はなされているが、防災管理についてまだまだ弱い部分がある。今後は、様々な状況を想定して防災マニュアルを詳細に見直したり、研修を通して職員の危機管理意識を高めたりしながら、さらなる学校防災の充実を図っていきたい。
- ②防災は人なりと言われるように、学校防災を推進するにあたり地域の方達との結びつきをどのように強めていくかが課題として残った。今後も子供と地域を結びつけていけるような働きかけをしていきたい。

【資料1】

東伊豆町立熱川小学校 学校防災研究構想

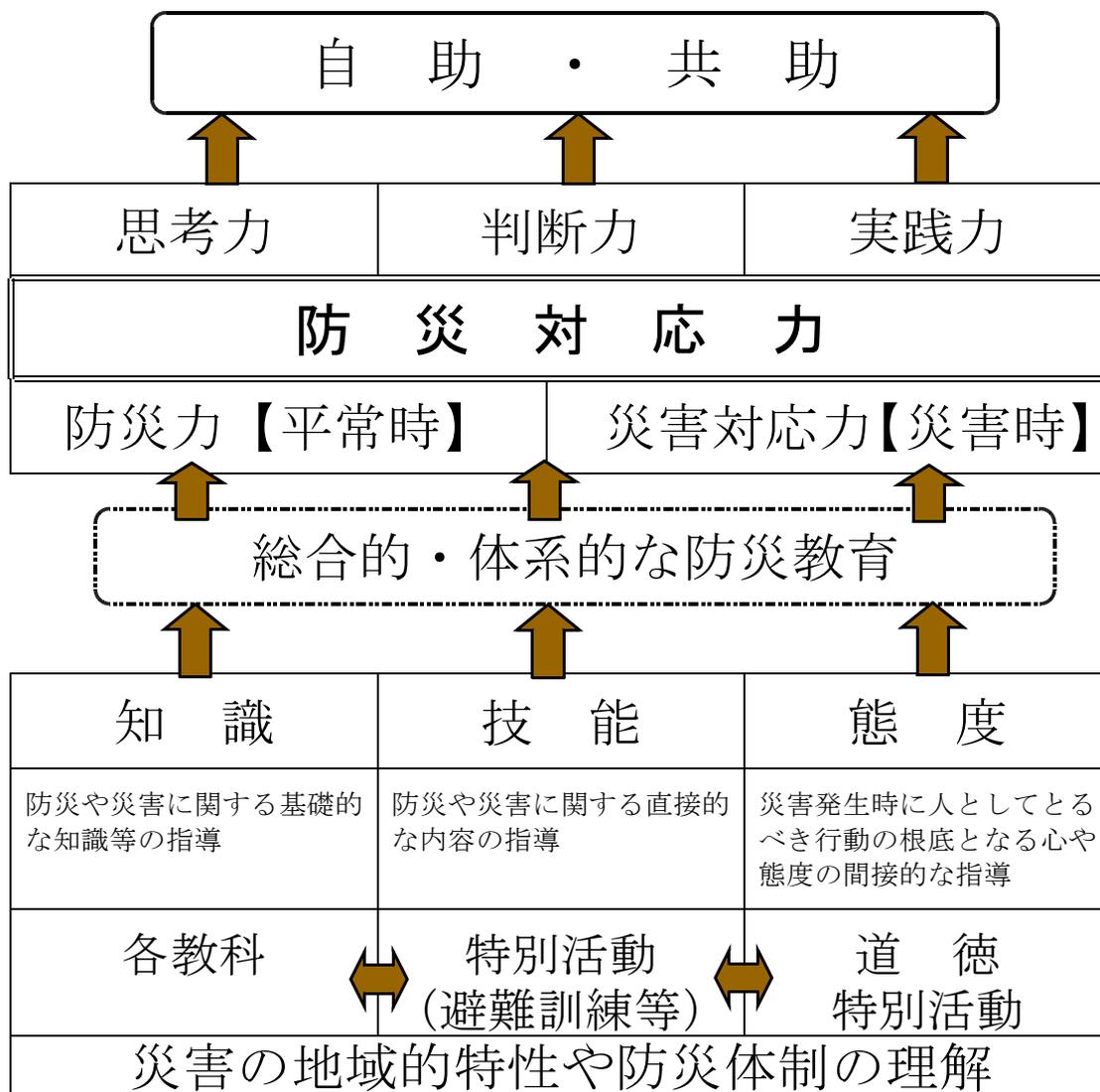
研究主題

『防災対応力を発揮し、すすんで自助・共助に取り組む児童の育成』

自助・・・災害に関する正しい知識や対応方法を身につけ、災害時に自らの判断で最善の行動を選択し、自らの安全を確保できる。

共助・・・自他の生命を大切にし、災害時に進んで他の人や地域の力になることができる。

防災対応力・・・防災・災害対応についての知識・技能・態度を融合的に育成することによって、思考力・判断力・実践力を発揮し、災害時に自他のために適確に行動できる力



熱小学習スタイル

「サービスマーケティング」の考え方を活かした『総合的な学習』
地域の防災課題を共有し、その解決に取り組む学習

6 学年		4 月	5 月	6 月	7 月	8・9月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
防 災 知 識	国語科	「出発」 「プラス思考で アドバイス」 「服を着たゾウ」 「遠眼鏡の海」	「言葉のきまり1」 「漢字の部屋1」 「インターネット・ コミュニケーション」 「発明・発見は はてなから？」	「自分の脳を自分で 育てる」 「言葉のいずみ1」 「すいせんします！ この委員会活動」	「言葉のいずみ2」 「漢字の部屋2」 「文章構成の効果考 える①」「フリード ルとテレジンの小さな 画たち」「本と友達」 「読書の部屋」「卒業 レポートを書こう(予告 編)」	「ヒロシマの傷」 「きのうより一回だけ 多く」 「狂言 松山」 「漢詩 尋訪隠者」 「新しい漢字」「電子 メールや送り状の書き 方」「言語感覚を豊か にしよう」	「言葉のきまり2」 「漢字の部屋3」 「新しい漢字」 「土」 「本物の森で未来を守 る」 「言葉のきまり 1」	「漢字の部屋1」 「読み取り方を考える」 「新しい漢字」「パネ ルディスカッションを しよう」 「言葉のいずみ1」 「『連詩』を発見する」 「心と言葉をつなげよ う」	「きつねの窓」 「本は心の道しるべ」 「本と友達 読書の部屋」 「新しい漢字」	「ぼく・私の物語づく り」 「みんなが納得する結 論を生み出そう」 「言葉のきまり2」 「国境なき大陸南極」 「文章 構成の効果を考える②」	「卒業レポートを書 こう②」 「新しい漢字」 「言葉のいずみ2」 「漢字の部屋2」	「その日、ぼくが 考えたこと」 「新しい漢字」 「支度」 "
	算数科	「対称」	「文字と式」 「分数のかけ算」	「分数のわり算」 「記録比べ」 「小数と分数の計算」	「曲線のある形の 面積」 復習1	「ならべ方と組み 合わせ方」 「速さ」	「速さ」 「立体の体積」 「比とその応用」	「拡大図と縮図」 「比例と反比例」	「比例と反比例」 復習2"	「資料の調べ方」 「量と単位」	「算数のまとめ」 「算数で使った考 え方」	「算数で使った考 え方」 「中学校へのかけ橋」
	社会科	「縄文のむらから 古墳の国へ」	「天皇中心の国づ くり」 「貴族の暮らし」	「武士の世の中へ」 「今に伝わる室町 文化」	「3人の武将と天 下統一」 「江戸幕府と政治 の安定」	「国の政治の仕組」 「江戸幕 府と政治の安定」 「町人の文 化と新しい学問」 「明治の国 づくりを進めた人々」	「明治の国づくり を進めた人々」 「世界に歩み出 した日本」	「長く続いた戦争 と人々の暮らし」 「新しい日本、平 和な日本へ」	「子育て支援の願 いを実現する政治」 「震災復興の願いを 実現する政治」	「国の政治の仕組 み」 「私たちの暮らし と日本国憲法」	「日本とつながり の深い国々」	「世界の未来と日 本の役割」
	理科	「私たちの生活と環 境・学習の準備」 「ものの燃え方」	「ものの燃え方」 「植物の成長と日光の関 わり」 「体のつくり とはたらき」	「体のつくりとはた らき」 「植物の成長と水の 関わり」	「植物の成長と水の 関わり」 「生物構成の関わり」	「月と太陽」 「水溶液の性質」	「水溶液の性質」 「土地のつくりと変 化」	「土地のつくりと変 化」 「てこのはたらき」	「てこのはたらき」	「電気の性質とそ の利用」	「電気の性質とそ の利用」 「生物と地球環境」	「生物と地球環境」
	図工科	「見つめて広げて」 「形や 色を楽しもう」 「想像の翼 を広げて」 「動きをとら せて形を見つけて」	「水の流れるように」 「わたしの大切な風景」		「くるくるクランク」 「光の形」	「アミアミアミーゴ」 「墨で表す」 「ひらいてみると」 「一瞬の形から」	「筆あとと研究所」		「味わってみよう和 の形」 「板から広がる世界」	「ドリームプラン」 「12年後のわたし」		
	音楽科	「巻頭 音楽リズム」 「心をつなぐ歌声」 「ゆた かな歌声をひびかせよう」	「豊かな声を響か せよう」	「いろいろな音のひびきを味わおう」		「和音の美しさを味わおう」		「曲想を味わおう」	「詩と音楽を味わ おう」	「日本と世界の音楽に親しもう」		「心をこめて表現 しよう」
	体育科	「体ほぐしの運動・体 力を高める運動」	「短距離走・リレ ー」	「表現」 「鉄棒運動」	「水泳」	「体ほぐしの運動・体 力を高める運動」	「ハードル走/走り幅 跳び/走り高跳び」 「マット 運動/跳び箱運動」	「サッカー/ソフ トボール」	「ソフトバレーボ ール/バスケット ボール」	「表現」	「体力を高める運 動」	
	習 保 健	「病気の起こり方」		「感染症の予防」	「生活習慣病の予防1」	「生活習慣病の予防2」	「喫煙の害と健康」		「飲酒の害と健康」	「薬物乱用の害と健康」	「地域の保健活動」	
	家庭科	わたしの仕事と生活時間 「わたしの仕事と生活時間」 「時間の使い方を工夫しよう」 「工夫して家庭 の仕事を続けよう」 「毎日の朝食をふり 返ろう」	「いためて朝食の おかずを作ろう」	「夏の生活を見つめよう」 「快適な住まい方や着 方をしよう(涼しい生 活)」 「夏の生活を工 夫しよう」	「快適な住まい方や着 方をしよう(涼しい生 活)」 「夏の生活を工 夫しよう」	「目的に合った形や大 きさと縫い方を考えよ う」 「工夫してつくろう」	「工夫してつくろ う」	「衣生活を豊かにして いこう」 「任せてね今日 の食事」 「自分の献立を 工夫しよう」	「家族が喜ぶ食事を作 ろう」 「楽しく食事をするた めに工夫しよう」	「冬の生活を見つ めよう」	「快適な住まい方や着 方を工夫しよう」 「冬の生活を工夫しよう」 「家 族の一員として家庭や地域で できること」	「心のつながりを深め よう」 「もっとかがやくこれ からの私たち」
	外国語	This is ME. 自己 紹介	This is ME. 自己紹介 Welcome to Japan. 日本 へようこそ	Welcome to Japan. 日本へ ようこそ He is famous. She is great. 日本や世界で活 躍する日本人	He is famous. She is great. 日本や世界で活 躍する日本人	I like my home town. 自分たちの 町・地域	My summer vacation. 夏休みの 思い出	What sport do you want to do? オリンピック・パラリンピ ック My best memory. 小学校生活・思 い出・行事	My best memory. 小学校生活・思 い出・行事	What do you want to do? 将来の夢・ 職業	What do you want to do? 将来の夢・ 職業	Junior high school life. 中学校生活・ 部活動
防 災 技 能	学校行事	始業式 入学式 身体測定 家庭訪問 地区会 集団下校	臨時避難訓練① 家庭訪問 リレー会 集団下校	運動会 読書旬間 プール開き 交通安全語る会 集団下校	臨時避難訓練② 終業式 集団下校	始業式 引き渡し訓練 集団下校 修学旅行	地域防災訓練 集団下校	遠足 東賀陸上記録会 臨時避難訓練③ 集団下校	避難訓練(不審者) 持久走大会 リレー会 終業式 集団下校	始業式 かがやき発表会 避難訓練(火災) 集団下校	臨時避難訓練④ リレー会 地区会 集団下校	6年生を送る会 修了式 卒業式 集団下校
	学級活動	学級組織作り 6年生になって	下級生の世話 安全な学校生活	上級生としての役割 (縦割り活動) 図書館を利用しよう 減災セミナー	学校生活の改善 1学期をふり返って 夏休みの生活 避難所での生活を体験してみよう	公共の施設でのマナー 後期委員会活動をふり返 ろう 防災講座(非常持 ち出し袋)	家庭学習の見直し 陸上記録会に向けて 地震が起きたらど うするの?	安全な学校生活	2学期をふり返って 風邪の予防 冬休みの生活	学級組織づくり 私の希望と抱負	安全な学校生活 感謝して食べる	卒業を前にして 充実した春休み
防 災 態 度	特別な道徳	「折り紙でたくさん の笑顔」 「困難を乗り越えて」 「友の肖像画」 「真の友情」 「さわってごらん 僕の顔」 「差別や偏見の無い 社会」	「折り切れたわらじ」 「みんなのため に」 「星野君の二墨打」 「チームの 一員として」 「山の畑に は草をしけ」 「自然との共生」	「だから言ったのに」 A(3)「生活を見直 す」 「人間をつくる道一 剣道」 「礼 を重んじる」 「その思いを受け 難い」 「家族の思いを知る」 「小石 丸がつなぐ千年の糸」 「文化をつなぐ」	「作業服のノーベル賞」 「自分らしく生きる」 ★「美しい空の勇者」 C(14) 4)「自分がやらなければ」	★「天災は忘れた頃にやってくる」 A(3) 3)「安全について」 「思いやりのかたち」 「本当の思いやり」 「イエローカード」 「これがルールだ」 「エルトゥール号 の奇跡」 「国を越えた思いやり」	「私の知らないところ で」 「行動と責 任」 「高跳びの選手は誰 がなる」 「同じ 立場になって」 「ペルーは泣い ている」 「国と国をつなぐ心」 「人 と自然と」 「かけがえない自然」	「ヤクサーとライオン」 「誠実に生き る」 ★「オリンピックの くれたもの」 C(14) 私にできること」 「米百俵」 「郷土 のために」 「カザルス の鳥の歌」 「生 命の限り生きる」	「雪の写真家ペン トニー」 「真理を求 めて」 「おばあさんの新 聞」 「感謝 の心を伝えて」 ★「命をつなげ！ ドクターヘリ」 D(19) 「命をつな ぐ」	「平和への祈りを舞 踏に込めて」 A(「努力 力を重ねる」 「放屁自転車」 「きまりを守るこ と」 「青の洞門」 「真心のもつか」	「銀のしょくたい」 「(相手を許す心) 「だれが拾うの?」 「(学校をよくする) ★「火の夜の赤 ちゃん」 D(19) 「かけがえ のない命」	「羊飼いの指輪」 「自由だからこそ」 「マザー・テレサ」 「人々のために」 "
防 災 実 践 力	総合的な学習	テーマ設定 調べてみたいこと を出し合う	調べ方を学ぶ 調べ学習をする	災害時に自分がで きそうなことを学ぶ 家庭科との連携	避難所体験を通し て、新たな課題の 発見	そなエリアにて災 害時の身の周りの 様子の理解 防災講座を通して 学んだこと	新たな課題等の 追究 災害後の行動の 仕方のまとめ	調べ学習 ↓ 発表に向けての資 料作りと練習	かがやき発表 自分たちに できること	町への提案づくり (テーマについて 自分たちからで ること)	町への提案 (図書館等の活用)	防災学習の 振り返り (成果と課題)

【資料2-2】 <6年生>防災カリキュラム・マネジメント No.2

1 防災技能に関すること(特別活動)

No.	月	学 習 名	学 習 内 容	関連する学習名（教科等）
1	6 7	避難所の生活を体験してみよう	居住スペースの体験や、家族以外の人と過ごすことなどを通して、避難所で気をつけていくことを学ぶ。	家庭科 「わたしの仕事と生活時間」 家庭科 「冬の生活を見つめよう」 家庭科 「夏の生活を見つめよう」
2	10	地震が起きたらどうする？ ～町の中で災害に遭ったら～	通学路や日常通る場所、遊ぶ場所の中から災害時危険な場所を探し、その場所にいた時にどう避難すべきか考え、避難方法を身につける。	国語 「きのうより1回だけ多く」 理科 「土地のつくりと変化」

2 防災知識に関すること(各教科)

No.	月	教 科 名	学 習 名	学 習 内 容	関連する学習名（教科等）
1	4	家 庭 科	わたしの仕事と生活時間	家庭の仕事を見直し、自分のかかわる家庭の仕事を決めて実践しながら、家族とともに協力することの大切さに気づく。また日常生活だけでなく、災害時の行動や役割を決めておく重要性についても理解する。	5年社会 「自然災害の防止」 避難所の生活を体験してみよう（学級活動）
2	9	国 語	きのうより1回だけ多く	阪神大震災の子どもたちの状況を学ぶ。	地震が起きたらどうするの？（学級活動）
3	10	国 語	本物の森で未来を守る	減災のために自然を活用というメッセージを読み取り、他にもどのようなことができるか考える。	社会 「震災復興の願いを実現する政治」
4	10 11	理 科	土地のつくりと変化	地震による土地の変化を学ぶことを通して、地震発生の仕組みや災害時の身の守り方等について理解する。	5年理科「台風と天気の変化」「流れる水のはたらき」 避難訓練（学校行事） 地震が起きたらどうするの？（学級活動）
5	12	社 会	震災復興の願いを 実現する政治	災害が起こったときには、市役所や町役場、県庁が緊急事態に対して組織的に救援活動を行ったり、災害復旧のための工事を進めたりしていることや、国でも地方自治体の救援活動をしたり災害復旧の施策を進めたりしていることを理解する。	国語 「本物の森で未来を守る」
6	1	家 庭 科	冬の生活を見つめよう	日光が差し込まない時や気温が低い時の暖房器具の利用の仕方について考える活動を通して、安全で効率的な暖房器具の使い方を理解し、冬の避難所生活へ役立てる。	避難所の生活を体験してみよう（学級活動）
7	7	家 庭 科	夏の生活を見つめよう	通風や衣服の調節などを学ぶことを通して、気温や湿度が上昇する夏季にできるだけ快適に過ごせる工夫を考え、夏の避難所生活へ役立てる。	避難所の生活を体験してみよう（学級活動）

防災対応力を発揮し、すすんで自助・共助に取り組む子の育成（防災学習）

- 主な取組 ①防災の知識を学ぶ教科学習 ②防災の技能を学ぶ特別活動（避難訓練等）
③防災の態度を育てる道徳 ④防災の実践力を培う生活科・総合的な学習

	取組の反省（箇条書きで結構です。職員会議で報告することを記入してください。）
1年	①生活科で学校探検をし、防災設備を調べた。②避難の仕方や合言葉を確認した。臨時避難訓練では、放送をよく聞き、落ち着いて行動することができていた。防災意識が高まっている。③「いのちがいっぱい」の学習で生命の尊さを学んだ。④「自分の命を守るために」というテーマで学習している。地震の揺れや津波の様子を映像でみたり、地震の仕組みを紙芝居で学んだりした。地震に伴って火災が発生することを知り、学校内の防災設備を調べた。学校や家で地震が起きたらどうなるか想定する学習をした。自分の防災バッグの中身を決め、その準備を夏休みに親子で行う活動を進めている。
2年	①生活科において災害の映像を見せ、地震が起きたときに火事や地割れ、津波、家の倒壊などが起こることが分かる。そして、避難場所と避難所の違いについても取り上げた。②臨時避難訓練の様子は見られなかったが、実際に地震が起きたときに教師の指示はあったが、一次避難はしっかりできた。③道徳と防災を絡めた授業はまだ行っていない。④避難場所ごとにグループを作り、調べる視点を子どもたちに話し合わせた。その視点を基に各避難場所に出かけ、調べ学習を行う予定。
3年	①学校の周りを探検して、社会の土地の使い方に加え、防災のときに役立つものについても見つけてきた。②臨時避難訓練を行い子供たちの様子を把握した。③「ふしぎのふしぎ」で生命の尊重について学んだが、もう少し防災につなげられればよかった。「ワールドカップのごみひろい」では、規則の尊重について学んだが、避難所でも配給のとききちんと並ぶ日本人のすばらしさについて触れていけばよかった。④学校の周りの危険箇所や防災で役立つものを探しにでかけた。
4年	①社会科で水を浄水するためのろ過の仕組みについて学んだ。②臨時避難訓練では、自分たちで状況を考えて行動する姿が見られた。低学年にも指示できる児童もいた。③防災に関連した価値や教材をまだ扱っていない。④水を確保するためにろ過と蒸留の方法を試した。ろ過は完全に不純物を取り除くことが難しくこれからも試行錯誤していく予定である。蒸留については得られる水の量が少なく、課題となった。
5年	①社会科「低い土地の暮らし」で水害について学んだ。堤防や水屋などの備えについて知った。②臨時避難訓練では下級生の誘導もできた。赤十字減災セミナーでは、ハンカチを使った応急処置の方法や、新聞紙スリッパの作り方など、具体的な防災技能を学んだ。③防災と「関連付ける」というより、価値そのものが「関連している」と捉え進めている。④災害への備えを大きなテーマとし、情報収集を行っていたが、6月は中断してしまった。
6年	①理科「ものの燃え方」では、非常時にも利用できるウッドストーブを作る学習を行った。社会科では、実物大の大仏をグラウンドに描き、東伊豆町に到達する津波の高さを実感した。②減災セミナーでは、身近なものを使った応急処置の仕方や新聞紙スリッパの作り方などの技能を学んだ。③「だから言ったのに」では、節度・節制について学んだが、防災に繋げて指導ができなかった。④通学路の危険箇所の中で、災害時に危険だと考えられる場所を見付け、資料にまとめて発表した。（観察シート）
梅組	①社会科で地域探検に行き、しおかぜ広場などの看板や置いてあるものなどを見学した。②臨時の避難訓練では、すぐに机の下に潜り机の脚を持って身を守っていた。校舎の出口を迷ったので、教えた。③「ふしぎのふしぎ」生命尊重で命のつながりについて学習したが、もう少し防災につなげればよかった。④地震についての絵本や写真などで、学習した。学校や家庭・地域について学習することを話した。教室内の危険な場所や避難の仕方をまとめた。
桜組	②「避難訓練」＝「放送がこわい」とインプットされている感があるが、「大丈夫だよ」「地震が起きたらダンゴムシみたいに小さく丸くなるよ」と繰り返し話したり、実際にダンゴムシのようにちいさくなってみたりして、恐怖感を和らげ、とっさの行動が習慣化できるようにしている。④生活科で、避難袋の中身についてふれ、家庭とも連絡・協力し合ってどんなものがあるといいか考えていきたいと計画している。
担当から	地域の素材や身近にあるものを活用した学習を進めている学級があります。「どんな学習で、どこ（だれ）が活用できたか。」を記録しておいてください。年度末には「地域の素材／人材活用ファイル」のような形でまとめたいと考えています。 臨時避難訓練は、改善の余地があるようです。より迅速な判断・行動を目指します。 今後も、学習單元ごとに（あるいは月ごとに）「防災カリキュラム・マネジメント」や、生活科／総合的な学習の全体計画に立ち返りながら、各能力や態度の確実な育成をお願いいたします。また、図工室前の防災掲示板には、学習の経過や成果物等の掲示をお願いいたします。

研究主題「防災対応力を発揮し、すすんで自助・共助に取り組む子どもの育成」 に係る1学期の取組の反省と2学期の展望(6年松組)

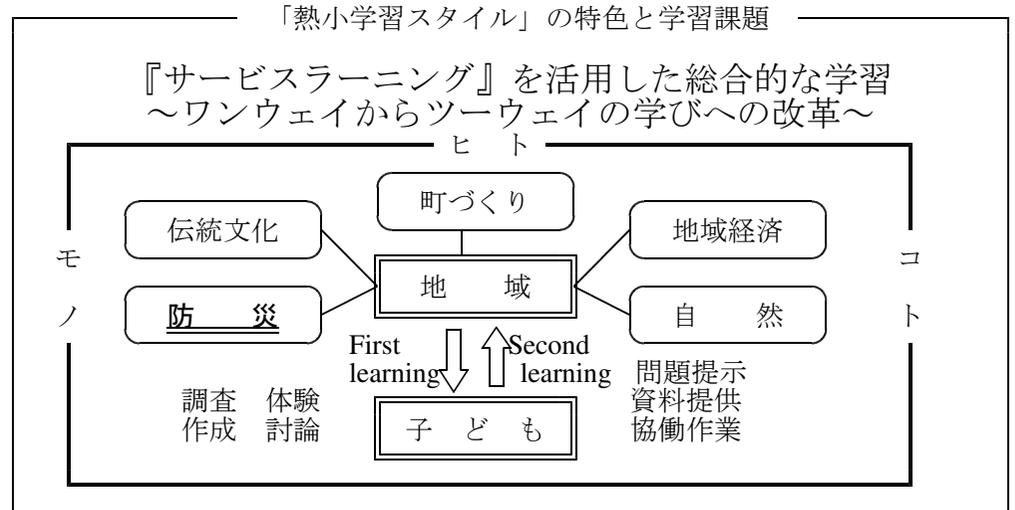
【資料4】

防災力 災害対応力	観点	1学期の実績と達成状況	2学期の計画
防災の知識を学ぶ 教科学習	「防災カリキュラム・マネジメント」に基づく取組	<ul style="list-style-type: none"> ・理科:ものの燃え方…カップラーメンづくりを題材に火のおこし方、ウッドストーブの作り方と活用について学習した。教科学習で学んだことを実生活に活かせることを学んだ。 ・社会:グラウンドに奈良の大仏を実物大で描き、東伊豆町に来ると予想されている津波の高さを体感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語:「きのうより一回だけ多く」震災を取り扱った詩…被災者の心情・状況を学ぶ「本物の森で未来を守る」減災を題材とした教材文を学習する。 ・理科:「土地のつくりと変化」…地震・津波などのメカニズムを学ぶ
防災の技能を学ぶ 特別活動 (避難訓練等)	(臨時)避難訓練の取組、賀茂地域局等の外部団体と連携した取組	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練:避難経路の確認をした。 ・臨時避難訓練:訓練後、場所によって避難の仕方が違うこと、避難時に高学年としてどのように動けばよいかを考えた。 ・学級活動:避難所での生活体験(居住スペースを中心に)体験を通して、共同生活上の課題や避難所運営についての疑問が生まれたので次に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災講座:非常持ち出し袋の中身の精選、避難生活に活かせる道具などを考える。 ・修学旅行:震災後の避難の仕方を学ぶ。避難生活で使える知恵を学ぶ。(そなエリア見学) ・学校外での避難の仕方:校区、校区外で災害に出会った場合の避難の仕方を確認する。
防災の態度を育てる 道徳	A「節度・節制」C「勤労・公共の精神」D「生命の尊さ」についての取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「だから言ったのに」A(3)節度・節制 ・「美しい空の勇者」C(14)勤労・公共の精神 <p>防災態度に繋がる二つの教材を取り扱ったが、防災の場面を想起しながら学習することはできなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「天災は忘れたころにやってくる」A(3) ・「オリンピックのくれたもの」C(14) ・「命をつなげ、ドクターヘリ」D(19) <p>生かすの場面で防災に関わるふり返りを書く取り組みを行う。</p>
防災の実践力を培う 生活科・総合的な学習	「生活科」「総合的な学習」全体計画・学習テーマに基づく取組(「サービスマーケティング」の取組、地域の人材・素材を活用した取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習テーマ設定 ・学習テーマから考えられる課題についての調べ学習(パソコン・図書室) <p>避難所で課題となること(高齢者・妊婦などの生活)、避難所の詳細、生活に必要なものなど、自分たちが分からないことを調べ、ワークシートにまとめた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題について調べ学習を行う。 ・調べ学習したことをもとに、自分たちの提案を考え、発表をする。(避難所について、避難生活上の課題、必要なもの等) <p>→ 中間発表(かがやき発表)</p>

学校教育目標	みんながつくる楽しい学校	重点目標	自ら考え ともに考え 夢に向かって高まる子
--------	--------------	------	-----------------------

総合的な学習の目標	地域の自然や社会と人々についての探究的な学習を通して、 <u>地域と課題を共有</u> し、その課題解決に向けて <u>仲間と協力して地域に積極的にはたらきかける</u>
-----------	---

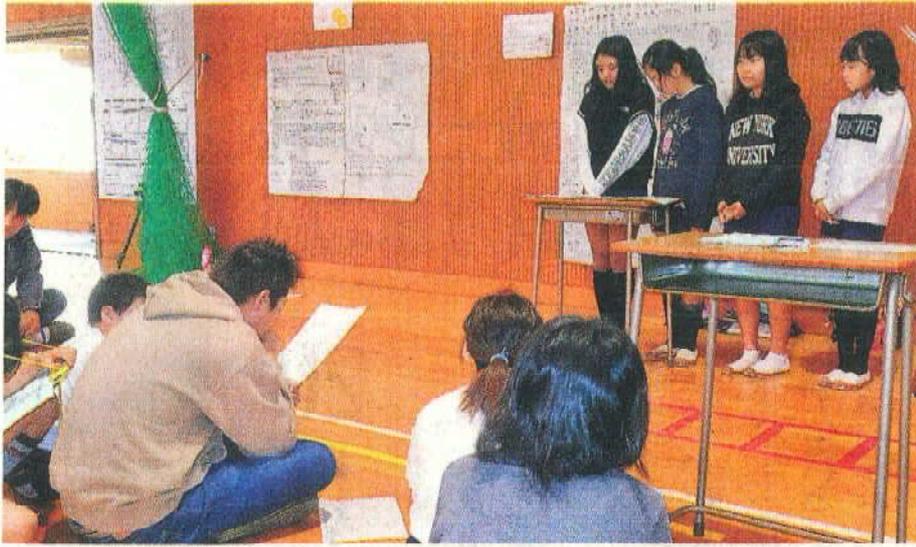
- 育てようとする資質や能力及び態度
- 学習方法に関すること
 - ①問題状況の中から課題を発見し、設定する。
 - ②必要な情報を収集し、分析する。
 - ③課題解決を目指して事象を比較したり、関連づけたりして考える。
 - ④相手や目的に応じて、わかりやすくまとめ、表現する。
 - 自分自身に関すること
 - ①自らの行為について意志決定する。
 - ②目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。
 - ③自らの生活の在り方を見直し実践する。
 - ④自己の将来を考え、夢や希望を持つ。
 - 他者や社会とのかかわりに関すること
 - ①異なる意見や他者の考えを受け入れる。
 - ②他者と協働して課題解決をする。
 - ③身の回りの環境とのかかわりを考えて生活する。
 - ④課題の解決に向けて地域の活動に積極的にかかわる。



＜防災学習に求める子どもの学びの姿＞

低生活	防災についての理解を育む	中総合	防災課題を地域と共有する	高総合	防災課題を共有しその解決に取り組む
-----	--------------	-----	--------------	-----	-------------------

学年	学習テーマ	First Learning (地域から得る学び)	Second Learning (地域へ返す学び)
1年生	身の周りの危険を見つめけ備えよう	校内や家庭内の危険を見つけよう	備える方法を学ぼう
2年生	地域の避難場所を調べよう	町を探検する	地図にまとめる → 地域の人にインタビューする
3年生	地域の安全マップをつくろう	地域に出て、避難場所や看板を見つけて、安全マップをつくる。	安全マップを各地域の回覧板に入れて知らせる。 12月の防災訓練の時に、子どもに説明させてもらう。
4年生	非常時の飲食	地域にあるものから、飲料水や防災食をつくる	災害時における飲食をまとめ、図書館で発表し、意見をもらう
5年生	減災を目指して ～災害への備えを考えよう～	・水、食料 ・建物の家具の固定 災害への備えを知り、考える	災害への備えの具体案を地域に発信する
6年生	災害後の生活 ～自分たちにできることをさがそう～	・避難所の様子 ・運営について ・もし避難する場所がなくなったら	町の人たちへの提案を考える ・避難所で自分たちができること ・みんなで協力して欲しいこと



避難所生活について発表する6年生＝東伊豆町の熱川小

東伊豆・熱川小

学んだ防災、地域に発信

父母や関係
団体100人に
学年ごとブース形式

県教育委員会の学校
防災推進協力校指定を
受ける東伊豆町の熱川
小（進士真校長、児童

149人）は3日、防

災発表会を同校で開い
た。全校児童が各学年
に分かれ、ブース形式
で発表し、来校した父
母や防災関係団体約1
00人に向けて学習成
果を地域発信した。

同校は前年度に指定
を受け、「防災対応力
を発揮し、すすんで自
助・共助に取り組む児
童の育成」を研究主題
に取り組んでいる。賀
茂地区は同校のみ。発
表会は学んだ内容を地
域に発信することで、
さらに学びを深めるの
が狙い。今後、発表会
で得た意見を参考に学
び直し、「修正版」を
校外に発信する。

学年ごとに防災の学
習テーマを決め、校外
も含め調査、研究を進
めてきた。このうち、
6年生は「災害後の生
活」をテーマに避難所
生活全般を扱った。食
料問題と手当て、役立
つ技、人間関係などを
発表し、最後に「協力
の仕方が分かった」「起
きる病気と対策が分
かった」などとまとめ
た。

校外に発信する。

子どもたちに防災対応力を育成するためには、防災に対する直接的な指導が必要です。その指導として、防災の技能を身につける避難訓練があります。

これまでの避難訓練を振り返ってみると、年間計画に、いつ、どのような内容の訓練をするかが決められており、そのための事前指導を各学級で行っていました。

防災教育を推進する本校では、今年度は、第1回目から児童への予告や指導をしない避難訓練を行うことにしました。これは、昨年度まで行ってきた避難訓練を生かして児童がどのように行動するか観察し、その中から出てきた課題をもとに、次の避難訓練を工夫し、より実践的な訓練にしたいと考えたからです。



休み時間に訓練を行いました。外で遊んでいる子は、グラウンド中心に集まりますが、どうしていいかわからない様子です。その中、手前の二人の子は腰を低くし、頭を守っています。

避難訓練はマニュアル通りにすばやく動くことも大切ですが、状況をきちんと理解し、どうすれば命を守る避難ができるか自分で判断し行動することがとても大切です。そのためには、様々な状況を想定しての訓練をしていかなければなりません。学校で大きな地震が発生した時には、停電になり校内放送が使えなくなるかもしれません。いつも使っている避難路が崩れたり、落下物が邪魔をしたりして通れなくなったりするかもしれません。その他、私たちが予想していなかった、想定外の出来事が起きることでしょう。その時に、教師も、児童もより適確な判断で避難できるように、防災への知識をもとに様々な問題を解決したり、自分の判断で行動したりするような訓練を考え、行っていきたいと思います。

10月30日(火)に6年生の親子活動で、「非常食の試食会」を行いました。賀茂危機管理局の粕谷宏幸 主査を講師に招き、試食会の他、災害や避難所の様子、また備蓄に関する講話をしていただきました。

親子で非常持ち出し袋の中身を確認したり、クラスみんなで中身を比べたりしたことで、何を入れておいた方がよいか、あらためて親子で考える機会となりました。



児童の感想

持ち出し袋の中に、冬は使い捨てカイロを入れようと思いました。カイロがあれば、寒い冬でも、少しあたたかくなると思うからです。食料が1週間分足りるのか不安だったので、少し増やしてみようと思いました。友達の持ち出し袋を見て、入れてあったらいいなと思う物があったので、今度入れてみようかなと思いました。

<6年 山本瑠緒>



熱小 防災通信

No.12

6月28日(金)に、5・6年生が、日本赤十字社静岡県支部が主催する「減災セミナー」を受講しました。

これは、災害に対する「防災」や「減災」の備えが一層重要になる中、子どもたちがいかに被害を少なくするかを学び、自助と共助の力を身につけるということを目的に行っているセミナーです。

子どもたちは、まず初めに指導員の方から、「巨大地震について」「減災とは」「非常持ち出し品」「避難所で気をつけたい病気とその予防」等についての話を聞きました。約20分ほどの講義でしたが、子どもたちは興味深く指導員の方のお話を聞いていました。

次に救急法の実技指導として、レジ袋を使っての腕の骨折の手当、ハンカチを使っての手の甲の傷の手当、また新聞紙を使ってのスリッパ作りを体験しました。

全部で45分という短い時間でしたが、子どもたちは減災についての理解を深め、災害時に活用できる方法を学びながら、自助・共助への意識を高めることができました。





左の画像は、1月20日(月)の朝に行われた地震を想定した臨時避難訓練の時のものです。

皆さん、この画像を見て、何かおかしさを感じませんか。

防災頭巾をかぶった子供達が階段を降りずに上っています。津波の危険から逃れるためには、このように校舎内の高い場所へ避難することもあります。熱川小は海拔も高くその心配もありません。ですから、2次避難は、運動場のような広い場所へ集まることが大切となるはずですが…。

実はこの時の訓練は、児童が朝読書中、また職員が職員室で打ち合わせ中で、教室には教師が不在という状況の中で地震が発生するという想定で行いました。また、地震発生に伴い階段や昇降口付近から火災が起きて、教室の場所によっては避難経路が通れなくなっているということも想定しました。

多くの訓練を重ねている子供達ですから、1次避難から2次避難まで大変落ち着いて素早く行動できます。しかし、2次避難が思うようにできない状況が生まれた時、パニックになり、冷静に物事を考えることができなくなることが当然考えられます。だからこそ、このような訓練が必要になるものと思います。これは子供達だけではなく、私達大人も想定外に対応するために想像力を発揮し、今できる行動の中での最善の策を見つけなければ、自分の命を守ることはできません。

今回の訓練では、3年生と5年生が通常使っている避難経路が通れない状況が生まれました。先ほどの階段を上る子供達は5年生ですが、1階を通れずに別の避難経路を探しに行く様子です。避難の原則として決して戻らないということがありますが、避難経路をたたれた5年生の子供達は、自分達でどこの経路が安全かを確認、別の経路を探しながら昇降口をさけ、2年生の教室を通過して運動場へ避難しました。

また3年生の子供達も、4年生側の階段の安全な避難経路を通り、無事避難しました。

前回の12月の臨時避難訓練でも、運動場へ向かう階段やスタンドが崩れ、運動場へ降りられない状況を想定しましたが、子供達は自分達で考え、判断しながら、駐車場や幼稚園などの広い安全な場所を探し、避難することができました。

昨年度から行っている、この臨時避難訓練は、職員の共通理解を図りながら、短時間で、いろいろな想定での訓練を実践しています。これは、子供達の防災技能を高めることはもちろんのこと、予想しない様々な状況に対して、自分の命



【一列になって2年生教室を通過して避難する5年生】

を守るために、今できる最善の努力をしていくことができる子供を育てたいという願いがあるからです。

子供達が防災で学んだ知識・技能・態度を確実に生かしながら、それでも想定にとらわれずに自分の頭で判断していけるようになることを強く願っています。